

平成18年度第1回山形県立博物館協議会 記録

平成18年6月14日（水）午後1時30分～2時30分
於：山形県立博物館 講堂

4 報告

(1) 平成18年度主要事業の進捗状況について (阿部副館長が説明)

【安達委員】 出張博物館の取り組みについて、対象となる学校の範囲を全県下に広げていく考えか。

【阿部副館長】 まず東南村山地域で実施してみたいと考えている。

【野口比委員】 この会で前に提言したことがいくつか実現していることはいいことだ。開催講座を聞いたがなかなか良かった。

中学生のインターンシップ受け入れの説明があったが、中学2年生の「職場体験」の受け入れ先探しに苦勞していて、我々NPOにも打診がある。差し支えなければ受け入れをもう少し拡大してはどうか。

【阿部副館長】 館側からの期日指定が出来ず、学校側の日程優先となっているのが現状。館側の受け入れ可能の範囲でケース・バイ・ケースでの対応にならざるを得ず、積極的なPRとはいかないのが実情。

【野口一委員】 中学校教育現場からの要請は受け入れなければならないが、この館では、一分野に1名の担当者しかいない。博物館職員本来の仕事である研究・調査の時間が取れなくなるのも問題であり、現体制では積極的な受け入れは無理なのではないか。

【元木会長】 山大附属博物館でも中学生を1名受け入れた際、たまたま当方の学芸員実習と日程が合って、その手伝いをしてもらうことで実施できたが、館の運営に支障のない範囲での受け入れということになるのではないか。

【吉田委員】 中学校側では、平成19年度からキャリアスタートウィーク（2年生、1週間）に取り組まなければならないことになっており、どこでも今年は1～2日やってみようという感じである。来年度はもっと強い要請になるだろう。学校にとって受け入れ先を探すのが大変で、各企業にご苦勞をお願いしている。

【元木会長】 大学教育にもインターンシップが導入されている。

プロの仕事で、素人がすぐ入ることができない仕事というものもある。ただし、できることは少し受け入れているというのが現状か。

【野口一委員】 学芸員には資料整理の時間もない事情があり、その関わり方には限界があることに配慮すべきと思う。ボランティアに協力してもらって、その体験をしてもらうなどの方法も考えられるのではないか。

(2) お客様の満足度調査アンケートについて

(阿部副館長が説明)

5 協議事項

(1) 山形県立博物館の今後の運営及びあり方について

【酒井委員】 博物館としてやらなければならないことが山積する中でも、ここでは多くの事業に取り組んでいるようだ。本県は他県に比べて博物館等の数が少ない。そのため、県立博物館でなければ出来ないことが多くある。県の予算できちんと措置してもらうことを望みたい。

【元木会長】 同感である。例えば茨城県など、県立館が3つも4つもある。

【安部委員】 静岡県に行って本県のことを考えさせられた。本県では文化予算がかくも削減されたことに憤っている。文化事業はすべて切られて、「文化県山形」は消えていく。ぜひしっかりと予算化に取り組まれるように望む。文化にはお金が必要で、その核となるのが博物館である。補正予算の機会もあるはず。お金がないから博物館活性化ができない、とならぬように心して。

【野口一委員】 2月の全国高校文化連盟の研究大会（名古屋）で感じた。名古屋では、からくり人形に見られるように、文化を今に引き継いできた素地がある。三重県では、県政はまず文化を考える、という話だ。本県の県政でもぜひ文化を大切にしてほしい。こんな貧弱な県立博物館はない。

【安達委員】 元委員の江口氏と話したが、財政難による民間委託の流れの中でイベントの質が落ちてきたように見える。この館は直営か。

【高橋副館長】 直営である。

【安達委員】 ぜひ直営を維持してもらいたい。

(閉会)